

令和4年度 学校評価報告

草加市立八幡北小学校
(令和5年2月9日作成)

1 学校教育目標 なかよく (徳) かしこく (知) たくましく (体) 知・徳・体の調和がとれた笑顔あふれる八幡北小	
2 重点目標・努力目標 (1) 3つの大切 (自分・関わり・感謝) ①特別活動 ②道徳教育 ③学級経営 ④インクルージョンの推進 ⑤交流・体験活動 (2) 伸ばす3つの力 (聴く・伝える・書く) ①主体的・対話的で深い学び ②各種学習状況調査の分析・活用 (3) 自分育ての3つのバランス (食べる・動く・休む) ①豊かなスポーツライフ ②自分の生命を守り育てる	3 前年度の成果と課題 成果 ○組織を機能させることや業務を分担する意識が高まり、笑顔溢れる学校づくりに向け、協働することができた。 ○埼玉県学力学習状況調査結果、「草加っ子の基礎・基本」「草加っ子の学びを支える授業の5か条」に基づいた授業改善を行った。 課題 ●研修の充実を図り、授業力を向上する。 ●地域人材の活用し、連携をより推進する。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○職員が主体的に学校運営に参画する意識が高まり、笑顔溢れる学校づくりに向け、協働することができた。 ●組織力の向上と業務精選。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○「学ぶことを楽しむ児童の育成」に関わる研究を通して、ブロック内での定期的な研究授業の実施、協議・検討を重ね、授業改善が図れた。 ●基礎基本の定着と、指導と評価の一体化に基づく授業力の向上
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○国や県からの通達を、職員会議等で周知・徹底することで、全校共通で健康管理と保健衛生管理に取り組むことができた。 ●地震、火事、竜巻等様々な事案を想定した危機管理マニュアルに基づく共通理解・共通行動の徹底
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○教職員事故防止研修を定期的実施し、情報の適切な管理・運用に努めた。 ●全教職員が主体となった施設設備の維持・管理
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○サタデースクールでの学校公開と、全ての学年で公開学習や参加型学習を実施した。 ●学校行事等を通じた校種間の連携強化
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○定期的に幼保小中連絡協議会を実施した。また、入学・進学に伴う情報交換を幼保中と行った。 ●制約・変更、新しい生活様式を踏まえた年間指導計画・行事計画の改善

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の進度、実施時数に配慮し、職員・児童ともに負担を軽減した教育計画を実行できた。 ●身に付ける資質・能力を具体化した、教科等横断的なカリキュラムの作成
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力学習状況調査の内容・結果や、埼玉県学力学習状況調査の帳票を基に授業改善を行ったことで草加市学力学習状況調査では一定の成果を得た。 ●指導と評価の一体化に基づく授業力の向上
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業でのご指導をもとに、考え議論する道徳に向けた授業改善を行った。 ●道徳の時間を柱とした、教育活動全体を通じた道徳教育の充実
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語・外国語活動の授業において主体的に活動する児童の姿が多く見られた。 ●ICTの有効的な活用と、児童にとって深い学びになるための指導計画の作成
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○校内での特別活動を昨年度と比較して多く実施したことで、他学年との交流が増えた。 ●新しい生活様式に合わせた学校行事の計画立案・実践
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年で指導計画を見直し、指導内容の充実を図った。 ●地域との交流を深めるための教科等横断的なカリキュラムの作成
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○外部人材を招いていじめ防止対策委員会を確実に実施し、一つ一つの事案や様々な事例について話し合った。 ●より強固で組織的な生徒指導体制の構築。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアパスポートを活用し、学期ごとにめあての設定・ふりかえりを行い、児童が主体的に成長をふり返ることができた。 ●中学校と連携したキャリア教育の実施
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○教育支援室との連携や児童理解研修等を定期的に実施し、児童一人一人により効果的な指導を行った。 ●個別の支援計画の充実と、深い児童理解と共通理解
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館司書を中心に学校図書館のイベントを開催したことで、年間の貸出冊数が増加した。 ●蔵書の計画的・定期的な点検・整備、児童の願いに沿った図書館経営
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○授業等でタブレットの積極的・有効的な活用を努め、学習意欲と児童の情報活用能力が高まった。 ●学年の実態に合わせた情報モラル教育の実施
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○夏季休業中に教職員の人権感覚育成をねらいとした研修を実施した。 ●人権教育・道徳教育を柱とした人権感覚の育成

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①一人一人を大切に した生徒指導・教育相談	・豊かな体験活動	B	○生徒指導部会・いじめ防止対策推進委員会では外部講師を招聘し、生徒指導・教育相談、特別支援上の課題について協議した ●地域・家庭との連携、ネットモラルに関する外部講師の招へいと、SNS・アプリ内のトラブルの未然防止。
	②学力の向上	・授業改善	A	○夏季休業中に、全国・県の学力学習状況調査の結果を用いた研修会を実施し、全学年で結果を考察し、学力向上に資する授業改善を行ったことで、市の学力学習状況調査では全実施学年で一定の成果を得ることができた。 ●理科の指導力向上と、問題を科学的に解決するために必要な資質・能力の育成
	③地域と共にある学校づくり	・地域ともに行う授業	A	○時間短縮・規模の縮小を行いながら学校公開や学年授業公開を行った。また、年間指導計画にも地域人材の活用を盛り込んだ。 ●社会状況を見ながら短縮・縮小を緩和し、地域に開かれた学校づくりの実施。地域と協働した授業づくりの実施

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

本校は、「なかよく かしく たくましく」の学校教育目標のもと、知・徳・体の調和がとれた笑顔あふれる八幡北小学校づくりに励んだ。

- ・令和4年度は、子どもの可能性を最大限に伸ばせる教育活動の実現を目指し、「学ぶことを楽しむ児童の育成」を研究主題とし、研究に励んだ。
- ・温かい地域のご協力もあり、主に生活科の学習を通じて地域との交流を深めることができた。
- ・体験活動を道德教育充実させ、子どもの社会性や道德性を育ててほしい。

(学校関係者評価)

6 次年度の改善策

教職員・児童・保護者・地域の思いを取り入れた行事・指導計画を立案し、より見通しを持った学校教育活動を実施する。

- ・令和4年度に引き続き、保護者や地域の方々の思いや力を、児童により伝え、あいさつという形で地域とかかわりあえるようあいさつ運動等の充実を図る。
- ・全教員による諸調査の分析と、段階的な教科担任制に取り組んだことで、教育活動の改善と教育課程全体の質の向上が図れた。次年度は教科担任制を実施し、教職員の負担軽減と授業力の向上を目指す。
- ・組織的な生徒指導体制を構築し、深い児童理解に伴う積極的生徒指導を学校全体で実施する。
- ・教職員事故0を目指し、ショート研修会を次年度も継続的に実施する。